第53回 X線材料強度に関するシンポジウム開催報告[†]

西田 真之* 八代 浩二**

Report on “The 53th Symposium on X-Ray Studies on Mechanical Behavior of Materials”

by

Masayuki NISHIDA* and Koji YATSUSHIRO**

「第53回X線材料強度に関するシンポジウム」を令和元年7月11日(木)、12日(金)の両日、エル・おおさか(大阪府立労働センター)で開催した。本シンポジウムはX線材料強度部門委員会の主要企画事業であり、国内で国際会議等が開催される場合などを除いて毎年実施されており、今年で第53回目の開催となった。ここ数年は関東圏在住の部門委員の利便性にも配慮して関西と関東で交互に開催されている。昨年の静岡県での開催に続いて、今年は宿泊や交通の便のよい大阪の天満橋に近い、エル・おおさか(大阪府立労働センター)での開催となった。会場は設備もよく、階段教室であることからプレゼンの画面が見やすいことから聴講には良い環境であった。

今回は講演申込数が33件、参加登録者は87名と昨年を上回る多くの参加者が集った。終始活発な討論が繰り広げられ、盛況のうちに無事閉会となった。天気も晴天に恵まれ充実した内容の2日間であった。

講演の内訳は、両日合わせて薄膜・表面改質に関する講演が4件、加工・熱処理に関する講演が4件、ポリマー・金属ガラスに関する講演が6件、測定法・ひずみ測定に関する講演が8件、微細組織・損傷評価薄膜に関する講演が8件となっている。また、今回初めての試みとして、装置メーカーによるワークショップも1セッション設けられ、2次元検出器を中心とした3件の講演があった。今回のシンポジウムで特徴的だったのは、プラスチックや金属ガラスなどの非晶質材料への展開が紹介された講演が合わせて6件あり、今後のX線応力測定分野での新たなテーマとして注目され始めている。さらに昨年に引き続き、2次元検出器を用いた測定手法にも注目が集まっており、合わせて6件の発表があった。

昨年に比べて講演件数が増えたことで朝9時過ぎから夕方5時頃までの2日間フルタイムの講演会となり、また、二日間ともに活発な質疑応答があり、内容の濃い充実したシンポジウムであった。

第一日目の夕方には、エル・おおさか10階の会場にて懇親会を開催した。懇親会の参加費は一昨年からを試みでX線部門委員会の負担で無料としており、参加者は48名と盛況であった。懇親会では、今回の講演者

で最年少の吉野智貴氏(東京都市大学、学部4年)による乾杯で始まり、講演では十分でなかったディスカッションや情報交換が和気あいあいの中で活発に行われた。懇親会の最後は、最年長でご参加の元X線委員会委員長の田中啓介先生から、来年のシンポジウムに向けて、さらに多くの参加者を募るご提案で締め括って頂いた。なお、来年の第54回X線シンポジウムは関東方面で開催予定である。

本シンポジウムでは若手(35歳以下)の研究奨励を目的に社会人および大学院博士後期課程在籍者を対象とした「一般」、そして大学院博士前期課程、修士課程、学部学生を対象とした「学生」の2部門で優秀発表賞を設けており、正会員の参加者全員から評価を頂いて受賞者を決定することになっている。今年度の対象者は11名であった。審査結果は9月3日に茨城県東海村のJ-PARCで開催される第193回X線部門委員会で委員に報告され、12月6日に開催予定の第56回X線材料強度に関する討論会での授賞式を予定している。今年度は一般部門は該当者なし、学生部門は山本梨乃氏(神戸高専専攻科)に決定した。

最後に、講演された皆様、講演論文集に広告を掲載頂いた関連メーカー各位、シンポジウムの運営にご協力頂いた関連メーカー各位と学生諸君、そして学会事務局の船越様、三島様には大変お世話になった。この場をお借りして感謝を申し上げる。

図1 シンポジウム会場の模様

[†] 原稿受理 令和元年7月30日 Received July 30, 2019 ©2019 The Society of Materials Science, Japan

* 正会員 神戸市立工業高等専門学校 〒651-2194 神戸市西区学園東町, Kobe City College of Technology, Gakuenhigashimachi, Kobe, 651-2194.

** 正会員 山梨県産業技術センター 〒403-0004 富士吉田市下吉田, Yamanashi Industrial Technology Center, Shimo-yoshida, Fujiyoshida, 403-0004.